

教育

✉edu@asahi.com

木曜～日曜掲載

「有識者の助言必要」

下村前文科相に聞く

センター試験改革を打ち出した教育再生実行会議担当相も務めた下村博文・前文科相に、現状や課題について聞いた。

——「複数回」の実施が先送りされました。

高校の教育課程との兼ね合いですぐには実施しないが、トーンダウンではない。現場の理解を得ながらやる必要があると思う。

——記述式は費用対効果について懸念する声があります。

旧来の受験勉強で身につく知識

だけではこれから通用しない。思考力や表現力、主体的にみんなと協働する能力も求められる。それをみる方法の一つが記述式だ。何十万人が受ける民間教育産業の試験にも採用されており、センター試験でできないということはない。工夫次第だと思う。

——そもそも、大学入試を改革する意義は。

象徴的な例が英語。4技能（読む、書く、聞く、話す）のうち2技能しか評価していない。英語が身につかないのは受

験英語の弊害と言える。ただ、入試だけ単独で改革するのではなく、高校や大学の教育をどう変えるかという視点が大事だ。

今の大学入試が制度上は相当うまくいっていると多くの人が思っている。ただ、問う能力がこれからの時代に合っているのか。時代認識の差が、新たな制度設計への反対論につながっている。

——改革をどう進めていくべきですか。

中途半端に瓦解しないかが心配。文科省内だけでなく、外部の有識者が引き続き、検討状況をみて助言できる仕組みを設ける必要がある。